



1

道後温泉本館エリア

どごおんせんほんかん



みどころ

夏目漱石も通った、道後の中心地の道後温泉本館をたずねよう。



▶ 道後の町並み（『創造都市松山』より）



▶ 昔（明治二十八年頃）の道後駅（「松山観光ボランティアガイドの会」のホームページ 四国・松山まち歩き観光より）

この日のまち歩きについて
今日ハ日曜なり天気は快晴なり
病氣ハ軽快なり
遊志勃然漱石と共に道後に
遊ぶ三層楼中天に聳えて来浴の
旅人ひきもきらず

① 柿の木に
とりまかれたる
温泉哉

子規と漱石は、道後温泉本館を訪れました。この俳句は、三階から見えた、道後温泉を取り囲むように柿の木が植わっていた様子を表しています。

みどころ①
道後温泉本館の昔の写真と今の様子を
見比べてみよう。



▲ 昔の道後の町並み（『創造都市まつやま』より）
1894年（明治27年頃）に撮影されたものです。純和風建築の中に、洋風建築の技法も用いられていました。

道後温泉本館

明治二十七年四月に、伊佐庭如矢によって、現在の三層楼へと改築されました。
道後温泉本館は、小説『坊っちゃん』にも住田温泉として登場しています。

道後の町を散策しました。

夏目漱石（一八六七一—一九一六）
夏目漱石は、『吾輩は猫である』や『坊っちゃん』などの小説を書いた日本を代表する小説家です。
明治二十八年、正岡子規が松山に戻った時、漱石は愛媛県尋常中学校の先生として愚陀仏庵に滞在していました。子規は、愚陀仏庵で漱石とともに五十二日間同居することになりました。
この日、子規は、漱石とともに道後の町を散策しました。



▲ 夏目漱石

道後鉄道

正岡子規と夏目漱石は、明治二十八年八月二十二日に開通したばかりの「道後鉄道」に乗って、愚陀仏庵のある一番町から道後まで出かけました。



2

鷺谷エリア みどりだに



みどころ

道後温泉にまつわる 白鷺
伝説の地である鷺谷から道後
の町並みを眺めてみよう。



■ 白鷺伝説
道後温泉は白鷺が発見したとい
う伝説が残っています。

「昔、脚を傷つけた二羽の白鷺
が、毎日のように飛んで来て、同
じ場所に舞い降りた。やがて、白
鷺は元気になって飛び去った。こ
れを見ていた村人が不思議に思っ
て、その場所を調べてみるとお湯
がわき出ているのを発見した。以
来、村人は病気の治療に、疲労回
復に温泉に入るようになったと言
われている。」



② 山本や

うしろ上りに
蕎麦の花

■ 山本
山本とは、「山のふも
と」という意味です。

鷺谷へと向かう山道のふもとから道後
の町を振り返ると、蕎麦の花が見えた様
子を表しています。(蕎麦の花については「石手・道後
コース」の「2 砂土手エリア」参照)

みどころ②

鷺谷地区の昔の
写真と今の町の様
子を見比べよう。



▲昔の鷺谷地区
この地域は、白鷺伝説があった場所と言われています。

③ 稲の穂に

温泉の町低し
二百軒

鷺谷墓地へと向かう山道から振り返
ると、数多くの商店や民家が軒を連ね
ている道後の町並みが見えた様子を表
しています。

■ 鷺谷墓地

鷺谷墓地は、当時この辺りにあっ
た大禅寺の墓地でしたが、今は松
山市の共同墓地になっています。
小説『坂の上の雲』の秋山好古
や道後温泉本館の改築で有名な伊
佐庭如矢など著名人のお墓があ
ります。

みどころ③

鷺谷墓地に向かう
坂の上から道後の町
を振り返ってみよう。



▲昔の鷺谷から見た道後の町並み
明治時代に道後鷺谷から眺めた道後の町並みです。
左奥に湯築城跡があります。

大禅寺エリア

だいぜんじ



みどころ

あきやまよしふる いさにわゆきや なか
秋山好古、伊佐庭如矢、中
むらくさたお
村草田男といった偉人の眠る
鷺谷墓地をたずねよう。



▶大禅寺跡の石碑
〔松山観光ボランティアガイドの会〕
のホームページ
四国・松山まち歩き観光より〕



▲昔の大禅寺と蓑毛桜
〔子規会誌〕より〕

④ 黄檗おうばくの山門さんもん深ふかき
芭蕉ばしょう哉かな

■ 芭蕉
芭蕉は、花や実がバナナに似た植物です。昔は、布を作る材料になっていました。



▲芭蕉

子規と漱石は大禅寺を訪れました。この俳句は、お寺の大きな門の周りに芭蕉が茂っている様子を表しています。

みどころ④
大禅寺が建っていた時の様子を想像しながら、歩いてみよう。

⑤ 花芒はなすすぎ
墓かぶいづれとも見定めず

■ 小島こじま 久ひさ
小島久は、子規のひいおばあさんです。子規は、幼いころに、久に愛情をもって育てられたため、久が亡くなったときは大層悲しみました。

子規は、鷺谷墓地にある小島久のお墓をたずねましたが、彼女のお墓ではなく花をつけたすすぎしか見つけられなかったことを表しています。

みどころ⑤
鷺谷墓地の高台から道後の町を見てみよう。



▲すすぎの花

■ 黄檗の山門
黄檗の山門とは、大禅寺というお寺の門のことで、現在のホテル椿館の場所にあります。大禅寺には、蓑毛桜と呼ばれる桜がありました。花の形がちょうど白鷺しろじぎの繁殖期に首や背中に生える蓑毛みのげと言われる飾り羽に似ていたことから、この名前が付けられました。



みどころ

子規と漱石が散策している
様子を思い浮かべながら鴉溪
の風情を楽しもう。



▲昔の伊佐爾波神社への参道
明治時代のもので、右側に映っている建物は、花月亭
を含めて数軒あった料理屋です。

⑥ 百日紅

さるすべり
こずえ
梢ばかりの
寒さ哉

花月亭の百日紅の花が散り、幹や枝ばかりになってきている姿を見て、冬の寒さが近くまで迫っていることを感じている様子がうかがえます。

⑦ 亭とところどころ

てい
たに
溪に橋ある
紅葉哉

鴉溪に紅葉が映え、小料理屋が立ち並ぶ風情ある景色がうかがえます。

■ 花月亭

花月亭とは、伊佐爾波神社参道沿いに、数軒あった料理屋のうちの一つです。玄関を入ると奥はすぐに清流と樹木に囲まれた自然があらふれていました。

みどころ⑥

ふなや旅館の庭園から子規と漱石も歩いた鴉溪の風情を楽しもう。

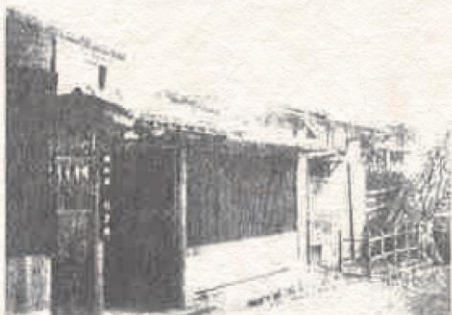


▲百日紅

■ 鴉溪

鴉溪とは、石手から道後に流れる御手洗川沿いの溪流です。道後十六谷の一つで、現在もふなや旅館の庭園を流れています。

古くから景勝地として知られ、安芸の宮島の「紅葉谷」になぞらえて「新紅葉」と呼ばれていました。



▲花月亭の様子（「子規会誌」より）



みどころ

昔の様子を想像しながら、宝厳寺へと向かう上人坂を歩こう。



▲昔(大正13年頃)の宝厳寺 (財団法人松山県史学会『ふるさとの思い出写真集 松山』より)

⑧ 柿の木や 宮司か宿の門がまえ

伊佐爾波神社 国の重要文化財に指定を受けている日本三大八幡造りの社殿が今も残っています。伊佐爾波神社には、多くの和算(日本の数学)の算額が奉納されています。

⑨ 古塚や 恋のさめたる柳散る

古塚と宝厳寺 古塚とは、「一遍上人誕生地の碑」のことです。宝厳寺は、時宗の開祖である一遍上人の生誕地とされています。境内には、子規が詠んだ句碑をはじめ、数多くの句碑・歌碑・詩碑が建てられています。



▲昔の伊佐爾波神社

古塚の柳が散っているところを見て、恋の終わりを感じている様子が見えそうです。

みどころ⑧ 宝厳寺の境内を 探検してみよう。



▲昔の古塚と宝厳寺への道 左側の手前に映っている石碑は、一遍上人誕生地の石碑です。(「子規会誌」より引用)